

表 海外主要国・地域におけるワクチン接種の状況

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日 (2021年)	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入手／入手後の防疫措置の緩和条件とする動き			ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き
タイ	バンコク	2月28日よりワクチン接種を開始。タイ政府は、感染リスクが高い地域にいる人々などは3月1日から自発的に接種を受けるよう呼び掛けた。	①シノバック（中国）：200万回分を調達済み。150万回分以上を追加発注済みで50万回分が4月第四週中に到着見込み。 ②アストラゼネカ（英国）：6,100万回分を契約。24日に11万7,600回分が到着。王室系の製薬会社サイアム・バイオサイエンスがライセンス生産予定。現在、サンプルの品質検査中で早ければ6月には供給できる見込み。 ③タイ製薬会社（GPO）・マヒドン大学：臨床試験中 ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）：3月25日認可（2022年3月24日までの1年間限定） ⑤チュラロンコン大学：4月に治験 ⑥ファイザー（米国）：500～100万回分の調達交渉中。早ければ7月にも調達の見込み。 ⑦その他：政府は今後、複数のメーカーから1,000万～1,500万回分を追加調達する予定。	ワクチン接種人数（4/24時点）： 94万9,124人（人口比：1.36%） （出所）Our World in Data	タイ保健省は5月6日の会見で、タイ居住の全ての希望者を接種の対象とし、外国人を含めた人口の7割（タイ人6,700万人、外国人300万人）の接種を目標とするとした。					タイ政府は19日、国外に渡航する際にワクチン接種済みであることを証明する「ワクチンパスポート」の導入を発表（紙ベース）。	不明	通常、（1）隔離期間10日（変異株流行国は14日間）、（2）隔離期間中のPCR検査は2回のところ、ワクチン証明がある場合は以下のとおり緩和。 1．到着の14日前～3カ月前にワクチン証明を取得し、かつ陰性証明書を所持している場合：（1）隔離期間7日間、（2）PCR検査1回。 2．ワクチン証明を所持、陰性証明を所持していない場合：（1）隔離期間7日間、2）PCR検査2回。	不明	私立病院は独自調達でタイ政府より認められている。 タイ商工会議所は民間企業で従業員用に100万回分のワクチンを独自調達すると発表。今後さらに1,000万回分のワクチンを購入する意向を示した。4月26日よりワクチン調達の登録を開始。	4月26日（邦人への接種状況は5月7日）
シンガポール	シンガポール	2020年12月30日	①ファイザー・ピオンテック ②モデルナ ※ワクチン別の接種数は未公表。4月13日からどのワクチンを接種するか選択可能になった。リー・シェンロン首相は2020年12月14日、2020年第3四半期までに全人口が接種できるだけのワクチンを確保したことを明らかにした。政府はファイザー・ピオンテック、モデルナ、シノバックの3種類のワクチン調達を明らかにしているが、2021年4月30日までに国内使用が承認されているのはファイザー・ピオンテックとモデルナの2種類。	4/18時点 1回目接種：1,364,124人 2回目接種：849,764人 3月25日から45歳以上へとワクチン接種対象者を拡大。6月から45歳以下もワクチン接種対象者となる予定。	日本人を含む外国人の長期滞在ビザ保有者、永住権者は接種対象。 *JCCI・JETROによる「新型コロナウイルスへの対応・対策」アンケート（4月5日実施、4月12日集計、回答件数：232件）によると、日系企業の駐在員のワクチン接種方針は「任意」が56%、「推奨」が30%、「方針を定めていない」が15%。	任意	長期滞在ビザ保有者（就労ビザ含む）、永住権者	無料	有 〔新型コロナウイルス・ワクチン障害資金援助プログラム（VIFAP）：ワクチン接種の副反応による死亡・恒久的な障害に対し22万5,000ドル、集中治療室での治療が必要な場合に1万5,000ドル、入院や治療が必要な場合は2,000ドルを補償〕	・濃厚接触者の追跡アプリ「トレストックゲザー」で、ワクチンの接種状況を明示。 ・国民（永住権者含む）用の健康情報アプリ「ヘルスハブ」で、ワクチン接種状況の把握と接種証明書のPDFでの発行を可能に	豪州、ニュージーランド、中国、香港、マレーシアとそれぞれ、ワクチン接種証明書の相互認証に向け協議中	オン・イエコン運輸相は4月28日、新型コロナウイルスの感染者数の少ない国・地域からのワクチン接種済みの渡航者について、隔離の免除を検討していることを明らかにした。	左記参照	政府のワクチン登録、情報サイト [https://www.vaccine.gov.sg/]	4月30日
マレーシア	クアラルンプール	2021年2月26日	①ファイザー・シノバック 使用中。 ③アストラゼネカ 使用中。27万回分を調達済。 ※政府の調達計画（3月12時時点） ファイザー：3200万回分 アストラゼネカ：1280万回分 シノバック：1200万回分 カンシン：350万回分 スプートニク：640万回分	130万回(4月24日時点) 2月26日（第1フェーズ）医療関係者の接種開始。 4月19日（第2フェーズ）60歳以上の高齢者、活習慣病患者などの重症化リスク者への接種開始。	接種対象。 順次接種通知を受けている。	任意	マレーシア在住者を対象	無償	重篤な副反応が発生し、長期の入院治療が必要となった場合：50,000リンギット永久的な障害又は死亡が発生した場合は500,000リンギット	ジョホールからシンガポールに越境通勤するマレーシア人に対してワクチンの電子証明書を導入し隔離を免除する予定（5～6月導入目途）。	シンガポールとの間でワクチン接種証明書の相互認証することで一致（3月23日）	左記参照	不明	●政府は民間の医療機関によるワクチンの調達を容認する姿勢（3月30日）	4月28日
インドネシア	ジャカルタ	1回目 2021年1月13日 2回目 2021年1月末	①シノバック 1月13日より使用開始 5,200万回分調達済。 ②アストラゼネカ（COVAXファシリティ）3月末に460万回分が到着。 ※2022年までの政府の調達計画（2月18日関係発言） シノバック（中） 29.4%(1億2,500万回分) アストラゼネカ（英） 19.4%（8,300万回分） COVAX 18.3%(7,800万回分) ノババックス（米） 17.3%（7,400万回分） ファイザー（米） 15.6%(6,600万回分)	1回目接種：1097万人 2回目接種：605万人 （4月25日時点） 1月13日から医療関係者の接種開始 2月17日から公務員と60歳以上の高齢者への接種開始 2月24日から教員と報道関係者への接種開始（今後の予定） 6月から重症化リスクの高い人への接種開始予定 なお、ワクチン接種は国民の義務	原則として接種対象外 ただし、大使館や非営利国際機関の職員については、政府公認の民間主体のワクチン調達・接種「相互扶助プログラム」の対象。	任意	各国代表機関、非営利国際機関の従業員 ※外資系企業の従業員および家族が対象となるかについては、現時点で統一的な見解が無い	事業主負担（詳細不明）	不明	不明	不明	不明	不明	●「相互扶助プログラム」を取りまとめているインドネシア商工会議所（KADIN）によると、1万7,600社が同プログラムに登録済み。国営製薬会社を通じてシノファーム（中）とスプートニクV（露）のワクチンを調達・使用予定。 ●現地在住の外国人を相互扶助プログラムの接種対象にする方向で政府内で議論中（5月3日、現地報道）	5月3日
フィリピン	マニラ	2021年3月1日	4月22日時点でのワクチン調達状況は以下（既にフィリピンへ納入が完了したもののみを記載）。 ①シノバック 300万回分を調達 ②アストラゼネカ（COVAXファシリティ） 525,600回分	1回目接種：139万7,628人（100万2,460人は医療関係者（A1）、18万4,286人は高齢者（A2）、21万882人は併存疾患を有する人（A3）） 2回目接種：21万4,776人（医療関係者）（4月26日時点、政府のワクチン接種計画での接種者のみ計上） ※6月頃より、民間・政府機関にて重要な部門に勤務する非医療関係者（A4）や貧困層（A5）への接種を実施する意向。	・フィリピン保健省は3月30日、外国人が政府のワクチン接種計画の優先接種対象に含まれると発表した。接種対象者リストについては、各自治体にて策定する ・4月7日、フィリピン日本人商工会議所とマニラ日本人会は、在フィリピン日本大使館に対して、日本政府が調達したワクチンをフィリピンで接種できるよう要望書を提出した。			左記のとおり	n/a	n/a	n/a	n/a	海外製薬会社からフィリピンへのワクチン供給は、第3四半期（7～9月）に本格化するフィリピン政府は見込み。	5月6日	
ベトナム	ホーチミン	3月8日より医療従事者等を対象に開始。	1. 輸入ワクチン （1）アストラゼネカ： ①ベトナム・ワクチン社が3,000万回分の購入契約済み。2月24日に第1弾（11万7,600回分）が到着。 ②COVAXファシリティによる第1弾（81万1,200回分）が4月1日に到着。5月までにさらに336万4,800回分が到着予定。2022年初頭までに計3,000万回分を計画。 （2）その他： 政府は企業によるワクチン調達を奨励。アストラ・ゼネカワクチン以外にも、SPUTNIK Vを承認。モデルナのワクチンを輸入する動きもある。 2. 国産ワクチン 現在、4種類のワクチン開発が進行中。このうち、Nanogen社のワクチン「Nano Covax」は第二相臨床試験を完了し、5月5日から第三相臨床試験を開始予定。ワクチン・生物学的製剤研究所（IVAC）が開発するワクチン「Covivac」は第二相臨床試験中。	・政府は2021年2月9日付政府決議1210/QD-BYTにより、COVAXファシリティ提供ワクチンの受領、保管、配送および利用について決定。 ・政府は2021年2月26日付政府決議21/NQ-CPにより、ワクチンの購入および使用について決定。 ・ワクチン接種人数（4/24時点）： 19万8,972人（人口比：0.2%） （出所）Our World in Data	現時点で、邦人含む居住外国人のワクチン接種に関して、政府から公式の発表はされていない。				政府は4月16日付議決45/NQ-CPにより、保健省に対して、ワクチン・パスポートの方針を早期に確定し、対象・国ごとの展開方法について研究するよう指示。	不明	不明	不明		4月27日	

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日 (2021年)	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き			ワクチン接種と国内活動制限に関する動き
オーストラリア	シドニー	2021年2月21日から	(2021年2月時点) (調達[予定含む]) ①ファイザー・ビオンテック（暫定承認）：4,000万本 (調達[予定含む]) ②英アストラゼネカ(暫定承認)：5,380万本 ③米ノババックス（試験段階）：5,100万本 ④コバックスファシリティの活用で2,500万本 ①～④の合計約1億5千万本を確保。	4月27日時点で202万9,544本の接種が完了。 連邦政府は4月8日、英アストラゼネカ製ワクチンの接種について、欧州で接種後に血栓を発症する報告が相次いだことを受け、50歳以上に使用を限定する方針を発表した。	居住者は無料で接種可能。2月より順次接種	任意	ビザの種類に関らず、全てのオーストラリア居住者が接種を受けることが可能となる	無料	n/a	不明	不明	不明	不明	出所：オーストラリア保健省 (https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/covid-19-vaccines/getting-vaccinated-for-covid-19)、首相官邸 (https://www.pm.gov.au/media/ast-razeneca-covid-19-vaccine)、 https://www.pm.gov.au/media/press-conference-australian-parliament-house-act-09april21)	4月29日
ニュージーランド	シドニー	2021年2月18日から	2021年3月8日時点 調達（予定含む） ①ファイザー：1,000万本 ②ヤンセン：500万本 ③Novavax：1,072万本 ④アストラゼネカ：760万本 ※②ヤンセン以外は、2回の接種が必要	2021年4月27日時点 1回目の接種：172,564人 2回目の接種：60,024人 接種された総用量：232,588本	居住者は無料で接種可能。2月より順次接種	任意	16歳以上の全てのニュージーランド在住者が接種を受けることが可能となる	無料	不明	不明	不明	不明	不明	出所：NZ保健省 (https://www.health.govt.nz/our-work/diseases-and-conditions/covid-19-novel-coronavirus/covid-19-vaccines)	4月29日
インド	ニューデリー	1回目：2021年1月16日 2回目：2021年2月13日	5月7日時点の接種回数ベースで、以下のとおり。 ①アストラゼネカ（英）・Serum Institute of India（印）（Covishield）：148,937,203本（90.5%） ②Bharat Biotech（印）（Covaxin）：15,680,909本（9.5%） ※4月13日、ロシア製の新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の緊急使用を承認（工場製薬ドクター・レディース・ラボラトリーズが輸入）。	①1月16日に医療従事者やフロントワーカーを対象に接種が開始。 ②3月1日以降は60歳以上及び45～59歳で疾患（20種を指定）を持つ人も対象に。 ③4月1日以降は45歳以上の人が対象に変更。 ④5月1日以降は18歳以上の人が対象に変更。 4月27日の午前7時時点の接種者数は、1回目の接種を終えた人数が、1億2,136万1,009人、2回目の接種を終えた人数が、2,391万1,777人、延べ1億4,527万1,186件。	●在インド日本国大使館は4月7日時点で、「インド国内における外国人（日本人含む）の接種に関し、4月1日以降、インド人と同様に45歳以上は接種対象との説明を受けている」と発表。 ●接種する場合、承認された2社のうち、どちらか選択はできない。多くの邦人がCovishieldを接種しているが、Covaxinを接種した例も聞く。どちらの副反応の有無、有る場合の強弱は人次第。	任意	未発表であるは、実質年齢以外の制限はないため年齢制限さえクリアできれば誰でも接種可能。	（一般への案内） <4/30まで> ・政府医療施設での接種は完全無料、民間病院は1回最大250ルピーを負担。 <5月1日以降> ・接種対象者の拡大（18歳以上）に併せワクチンの供給を自由化。 国内産ワクチンの50%まで中央政府以外（州政府、病院等）への販売を許可。 ・メーカー2社の販売価格は以下。接種費用は不明。中央政府病院での接種は引き続き無料。 >SII（Covishield） 州政府：400ルピー、民間病院：600ルピー >Bharat Biotech（Covaxin） 州政府：600ルピー、民間病院：1,200ルピー	ワクチン接種によって副反応や有害事象が起きた場合の補償については確認されていない。	「CoWIN」（ウェブサイト/アプリ）からダウンロード可能であるが、上手くダウンロードできないケースも生じている。	不明	不明	不明	<出所> ・接種の進捗：インド保健・家庭福祉省ホームページ及び4月22日付「インドにおける新型コロナウイルスに関する情報提供（Vol.32）」（在インド日本国大使館） ・邦人の接種状況（1つ目●）：「インドにおける新型コロナウイルスに関する情報提供」（4月7日付Vol.31及び4月22日付Vol.32）（在インド日本国大使館） ・副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無：「インドにおける新型コロナウイルスに関する情報提供」（4月7日付Vol.31及び4月22日付Vol.32）（在インド日本国大使館） ・費用：インド保健・家庭福祉省発表、各社発表、インドメディア	4月27日（※ワクチンの使用状況は5月7日）
中国	北京	中国各地で地域差があるが2021年1月初旬以降、各地政府の通達により一般向けの接種開始。 ※公務員や航空会社、物流会社、生鮮食品部門など重点接種対象に対してはそれ以前から接種を実施。	1) 中国医薬集団（シノファーム）傘下の中国生物が開発した不活性ワクチン、2) 科興控股生物技術（シノバック・バイオテック）が開発した不活性ワクチン、3) 康希諾生物（カンシン・バイオロジクス）が開発した新型コロナウイルスワクチン（ウイルスベクターワクチン）、4) 国薬集団（シノファーム）中国生物武漢生物制品研究所が開発した不活化ワクチン	4月27日までの新型コロナワクチンの累計接種件数はのべ2億3,597万6,000件。ワクチン接種率（ワクチン接種件数/総人口）は12.2%（「財経」4月19日）。	上海市では、2021年3月29日より外国籍の適齢者をワクチン接種対象範囲とする旨が発表され、その後北京市、天津市、広東省、重慶市等でも外国籍者が接種対象に組み込まれた。こうした省・市では、外国籍者への接種が順次進んでいる。	任意	北京市、天津市、上海市、広東省、重慶市等では18歳以上の外国籍人員がワクチン接種対象に含まれている。 ※省や市によって、外国籍人員をワクチン接種対象に含めているか否かは異なる。	省や市によって異なる。また、社会保険加入の有無により、費用負担が異なる場合がある。 ※北京市では、市の社会保障医療保険に加入している者は、接種会場で北京市の医療保険加入証明書を提示することにより、無料で接種可能。未加入の場合の接種費用は1回当たり93.5元となっている（北京市外弁）。	不明。	韓国等とワクチン接種証明書の相互認証制の導入について協議中。	3月15日から、中国製ワクチンを接種済みで、ワクチン接種証明を有する外国籍者の訪中ビザ申請手続きを簡素化（日本やパキスタン、フィリピン、タイ等）	ワクチン接種の有無にかかわらず、中・高リスク地区を除けば国内の移動については原則として制限がない。	3月30日の外交部発表によると、中国は80カ国にワクチン支援を提供し、40カ国にワクチンを輸出している。	4月28日	
韓国	ソウル	2021年2月26日	ファイザー：129万1,029人（47.2%） アストラゼネカ：144万4,022人（52.8%） ※4月27日時点の使用状況、2次接種分も含む	人口（注）当たりの接種率 1次接種：5% 2次接種：0.3% （注）2020年12月の住民登録件数基準	3か月（90日）以上滞在している外国人は滞在資格を問わず接種対象者に含まれ、接種の順番については韓国人と同様。	任意	滞在期間が3か月（90日）未満の短期滞在者を除く全ての邦人（外国人）。	無料	有り： ・診療費（本人負担金）および定額看病費（入院治療に限定し一人当たり5万ウォン） ・障害者への一時負担金 ・死亡時の一時補償金及び葬儀費用	政府サイト内から印刷もしくはPDFで証明書を発行。 4月15日からはモバイルアプリを活用した電子証明書を発行。	不明。	4月26日に国務総理は、コロナワクチン接種者の自宅隔離義務の免除について検討している旨発表。	現行の国内防疫措置では、ワクチン接種に関する規定は無し。	4月26日	

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況					水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日 (2021年)
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明書を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き	ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き		
EU		2020年12月27日	欧州委員会による調達契約の状況は以下のとおり（4月27日時点）： <条件付き販売承認済み> ①ファイザー・BioNTech（米・独）：6億回分 ②モデルナ（米）：4億6,000万回分 ③アストラゼナカ（英）：4億回分 ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：4億回分 <臨床試験段階> ⑤キュアバック（独）：4億500万回分 ⑥グラクソ・スミスクライン・サノフィ（英・仏）：3億回分 ※上記の他、ノババックス（米）：2億回分、ノルネバ（仏）：6,000万回分の調達契約に向けて交渉中。	初回接種：30.4% 接種完了：11.3% ※18歳以上を対象とした割合（EU27カ国） （5月5日時点、ECDC）	-	-	-	-	-	欧州委員会は3月17日、EUレベルでの枠組み「デジタル・グリーン証明書」を提案、21年6月の運用開始を目指す。QRコードに情報を付し、デジタル版と紙の両方を発行する。 ①ワクチン接種証明、②検査結果証明、③回復証明の3種類を発行する予定。 ※ワクチン接種証明はEUが承認したワクチンが対象。	各加盟国が証明書を発行し、EU共通のデジタルプラットフォームにより認証、EU全域で有効な証明書となる。各加盟国で互換性のあるシステム開発のため、仕様ガイドラインを提示。 EUと同等性のある証明書を発行する域外国については、相互承認を行う方向。	ワクチン接種は域内の移動の前提条件としないが、証明書の保持者に対する到着前や入国後の自主隔離等の制限措置の免除は各加盟国が決定する。 EU域外からの不要不急の入域制限は、ワクチン証明条件に解除することを検討中。その場合、加盟国は域内のワクチン証明書保持者と同様に、自主隔離の免除等を行うべきとしている。	接種者数は以下参照： https://vaccinetracker.ecdc.europa.eu/public/extensions/COVID-19/vaccine-tracker.html#uptake-tab	5月6日	
英国	ロンドン	2020年12月8日	4月28日時点で以下の3種。構成比は不明。 ①ファイザー・BioNTech（米・独）：12月8日接種開始 ②アストラゼナカ（英）：1月4日接種開始 ③モデルナ（米）：4月7日接種開始 同日時点ででの調達契約の状況は以下のとおり。 <接種開始済み> ①ファイザー・BioNTech（米・独）：1億回分 ②アストラゼナカ（英）：1億回分 ③モデルナ（米）：1,700万回分 <臨床試験段階> ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：3,000万回分 ⑤ノババックス・フジフィルムダイオシンスバイオテクノロジー・グラクソ・スミスクライン（米・日・英）：6,000万回分 ⑥グラクソ・スミスクライン・サノフィ（英・仏）：6,000万回分 ⑦ノルネバ（仏）：1億回分 ⑧キュアバック（独）：5,000万回分 （①～⑧計5億1,700万回分） （英国政府）	1回目接種を行った割合：65.7% 2回目接種を行った割合：30.0% ※18歳以上の人口（推計）で割った数値をジェトロで算出。 （5月4日時点、英国政府）	政府の接種計画に順じて接種している邦人が多数	任意だが、政府は国籍を問わず18歳以上の原則全ての住民に接種を強く推奨	n/a（任意） ※18歳以上	無料	深刻な障害（60%以上）が出た場合のみ、既存のワクチン関連損害賠償のスキームでカバー。	検討中 （ワクチン接種済、検査陰性、6カ月以内の感染歴のある者が提示可能とする案）	証明書の相互承認に向け他国や国際機関と協調。	検討中 （現在入国の条件としている72時間以内の陰性証明書の代わりとして活用する案。）	検討中 （劇場、ナイトクラブ、大規模イベントなどへの入場時の活用、社会的距離の制限緩和に活用する案。）	接種者数は以下参照 https://coronavirus.data.gov.uk/details/vaccinations 18歳以上の人口は以下参照 https://www.gov.uk/government/publications/uk-covid-19-vaccines-delivery-plan/uk-covid-19-vaccines-delivery-plan#prioritisation-1	5月6日
フランス	パリ	2020年12月27日	納入（デリバリー）ベースでの構成比は以下の通り（4月25日時点、フランス連帯・保健省） ①ファイザー・BioNTech（米・独）：1,513万4,090回分（67.7%） ②モデルナ（米）：190万2,600回分（8.5%） ③アストラゼナカ（英）：510万5,400回分（22.8%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：20万6,400回分（0.9%）	初回接種：30.1% 接種完了：12.5% ※18歳以上を対象とした割合 （5月5日時点、ECDC）	70歳台で多くの方が、また60歳台でも複数の接種実績を確認。現在55歳以上で接種可能であるものの駐在員での接種実績の確認はなし。	任意	n/a（任意）	デクレ（政令）で無料と規定（ただし、フランスの社会保険に加入していない邦人接種実績は未確認）	有（既存のワクチン関連損害賠償スキームの範囲内）	紙媒体での証明書は発行されている。4月29日からアプリ活用を含めデジタル証明書を発行予定。	フランス独自のシステムを開発中。4月中にも同システムの試行を開始し、6月17日までにEUレベルでの運用を目指す。	検討中	検討中	○出所は仏連帯・保健省ウェブサイト及び在仏日本大使館へのヒアリング、ECDCウェブサイト。 ○接種予定時期は仏連帯・保健省ウェブサイト等で公開されているもので、5月中旬に2,000万人、6月中旬に3,000万人、夏の終わりまでに18歳以上の全ての希望者に接種可能としている。	5月6日
ドイツ	ベルリン	2020年12月27日	接種回数ベースでの構成比は以下の通り（5月4日時点、ロベルトコッホ研究所） ①ファイザー・BioNTech（米・独）：2,339万9097回（74.4%） ②アストラゼナカ（英）：612万7,132回（19.5%） ③モデルナ（米）：193万2,692回（6.1%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：9,791回（0.0%） ※④は1度の接種で接種完了。	初回接種：34.3% 接種完了：9.7% ※18歳以上を対象とした割合 （5月5日時点、ECDC）	接種人数については不明。ドイツの公的医療保険若しくは私的医療保険に加入している、又は、住所を有するか日常的に滞在しているといった条件に該当する人は全て、国籍に関わらずワクチン接種を受ける権利あり。現時点では、ドイツ政府が、新型コロナウイルスに罹患した場合の重症化リスクや職業上の感染リスク等をもとに定めた優先順位のグループに基づき、ワクチン接種が進められている。5月中旬に4グループのうち優先上位3グループの接種を見込んでおり、6月には優先制度を廃止。各自が予約する形での接種に移行予定。	任意	n/a（任意）	無料	有	第2四半期中(6月)に整備予定。App上で発行される。申請すれば紙ベースの証明書も取得引き続き可能。	ドイツ独自のシステムを開発。各EU加盟国のシステムと相互認識をする仕組みを形成する。	ワクチン接種者に対して自主隔離義務の免除など防疫措置の緩和を実施予定。	現在の制限措置(店舗や美容院の利用時に課される迅速検査結果の提示義務)について、①予防接種を受けた人、②コロナ回復者、のいずれかの証明書を提示ができる人を対象に免除することで首相と州首相が合意。同内容を感染予防法に規定するため、連邦議会(下院)と連邦参議院(上院)で審議の予定。	接種に関する情報は、以下の在ドイツ日本大使館のウェブサイトにも掲載。 https://www.de.emb-japan.go.jp/itpr_ja/konsular_coronavirus200313-1.html#yobosesshu	5月6日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日 (2021年)	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明書を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き			ワクチン接種と国内活動制限に関する動き
イタリア	ミラノ	2020年12月31日	納入ベースの構成比は以下の通り（5月6日時点、保健省） ①ファイザー・BioNTech（米・独）：1,779万6,870回分（66.1%） ②アストラゼネカ（英）：656万5,080回分（24.4%） ③モデルナ（米）：221万7,900回分（8.2%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：33万6,800回分（1.3%）	初回接種：28.8% 接種完了：12.4% ※18歳以上を対象とした割合（5月5日時点、ECDC）	接種人数については不明。イタリア全体として、高齢者、基礎疾患がある人、医療福祉事業従事者などのグループを優先グループとして、接種が進む。接種スピードは地域差があるが、例えばミラノのあるロンバルディア州では、医療・福祉事業従事者などを除き、60歳未満の者の接種は開始されていない模様。邦人もこれに準じていると思われる。	任意	n/a（任意）	無料（国民皆保険制度加入者の場合）、非加入者の扱いは不明。	無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む） 4月22日付暫定措置令にて「グリーン証明書」の導入を規定。今後整備される予定のデジタルプラットフォーム（Piattaforma Nazionale-DGC）上において発行および認証などが管理されることになっている。発行は紙媒体あるいはデジタルフォーマット。	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き 他のEU加盟国で発行された類似の証明書も、同等のものとして認められるほか、EU域外の国については、EUで認められたワクチンの接種を示す証明書は同等として認めるとしている（具体的な運用方法や証明書の互換性などの詳細については、今後明らかになっていく見込み）。	ワクチン証明書を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き ワクチン接種の有無による入国・防疫措置の差別化は現状なし。ただし、海外からの渡航に関して規定している2021年4月16日保健省命令について、有効期限の5月15日をもって、「グリーン証明書」の導入を取り入れたものに大幅改定される予定と報じられている。	ワクチン接種と国内活動制限に関する動き 国内の移動制限などにおいて、ワクチン接種者を含む「グリーン証明書」保持者を緩和の対象とする動きあり。 ※州あるいは自治県をまたぐ移動において、最も厳しいレッドゾーンあるいは2番目に厳しいオレンジゾーンへの、あるいは同ゾーンからの移動については、ワクチンの接種完了、新型コロナウイルス罹患（りかん）からの回復、あるいは直近48時間以内にPCR検査あるいは抗原検査を受け陰性だった旨を証明する「グリーン証明書」を所持する場合のみ認められる。		5月6日
スペイン	マドリード	2020年12月27日	接種回数ベース/調達数ベースは以下の通り（4月23日時点、保健省）。 ①ファイザー・BionTech（米・独）：994万2,208（69.7%）/1,020万6,885回分（66.1%） ②アストラゼネカ（英）：341万414（23.9%）/371万7,000回分（24.1%） ③モデルナ（米）：91万1,228（6.4%）/137万2,800回分（8.9%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：2,401（0.0%）/14万6,400回分（0.9%） 合計：1,426万6,251/1,544万3,085回分	初回接種：31.3% 接種完了：13.1% ※18歳以上を対象とした割合（5月5日時点、ECDC）	接種人数については不明。居住者・非居住者、公的医療保険加入者・非加入者を問わず接種を実施。邦人もこれに準じていると思われる。	任意	n/a（任意）	無料	無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む） 6月末までに導入予定（基本的にQRコード）。	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き EU域内では共通のデジタルプラットフォームを利用。EU域外国については、EUとの同等性が認められた場合、当該国の証明書を有効とする方向。	ワクチン証明書を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き EU加盟国のワクチン接種証明の所持者については緩和する方針	ワクチン接種と国内活動制限に関する動き 国レベルでは具体的な動きはまだない（一部の自治州でワクチン接種者の州をまたぐ移動制限の緩和を検討）		5月6日
スイス	ジュネーブ	2020年12月23日	調達契約の状況は以下のとおり（連邦保健局）。 <承認済み> ①ファイザー・BioNTech（米・独）：600万回分 ②モデルナ（米）：1350万回分 <承認申請中> ③アストラゼネカ（英）530万回分 ④キュアバック（独）500万回分 ⑤ノババックス（米）600万回分	初回接種：26.43% 接種完了：9.53% (4月21日時点、連邦保健局)	国籍限らず、全スイス居住者平等に接種が進んでいる	任意	n/a（任意）	無料	有（既存のワクチン関連損害賠償スキームの範囲内）	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む） 夏の休暇時期までに電子媒体による証明書の導入・運用予定。	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き EUのデジタル・グリーン証明書との互換性を持つ。	ワクチン証明書を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き 詳細未定だが、外国との出入国における利用も想定されている。	ワクチン接種と国内活動制限に関する動き 成人人口の40～50%に対するワクチン接種が完了した段階では、ワクチン接種者、陰性検査結果保有者、または新型コロナウイルス感染症からの回復者のみが一部の場所への入場、活動への参加が許可される仕組みがつけられる可能性がある。夏～秋以降に一度緩和された感染防止策が状況悪化のために再導入される場合、対象者はワクチン接種証明書を持っていない人に限られる。		5月6日
ロシア	モスクワ・サンクトペテルブルク	1月18日から原則として、希望者全員（18歳未満の者を除く）接種可能となった。第2回目の接種は第1回目の接種から21日後。	ロシア製100%（ロシア製第1のワクチン「スプートニクV」（ガマレヤ研究所）、ロシア製第2のワクチン「エビワコロナ」（国立ウイルス学・生物学研究センター）、ロシア製第3のワクチン「コピワク」（チュマコフ連邦免疫生物学製剤研究開発センター））（2021年4月26日時点）	1回目の接種を終えた人数は約1100万人、2回目を終えた人数は約680万人（4月23日時点）。出所： http://kremlin.ru/events/president/news/65432	右記に従い、任意で受けた邦人はいるが人数や比率については不明	任意	・公的接種場所では、外国人は長期滞在資格保有者のみとされ、駐在員は対象外とされている模様（2月17日までは、場所により外国人は誰でも受けられた）。 ・民間クリニックでは上記制限なく外国人が受けられるところがある。	無料（民間クリニックの場合は接種前診察が有料）	副反応が出た場合には通常の救急搬送処置が行われる。補償については不明。	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む） 2021年1月から連邦政府サービスポータルから取得可能。デジタル版もあり。 出所： https://www.gosuslugi.ru/landing/vaccination	4月28日時点で情報なし。	4月28日時点で情報なし。	連邦政府がロシアへの渡航者に対する新型コロナウイルス感染拡大防止を目的としたモバイルアプリ「Travel without COVID-19」を導入。同アプリで最寄りのPCR検査機関の検索や検査結果のQRコード表示が可能になる。今後ロシア入国の際に同アプリのインストールおよびロシア国内での使用が義務付けられるとの見方も出ている。 出所： https://www.mid.ru/posledniye_dobavleniye/-/asset_publisher/MCZ7HQuMdqBY/content/id/4706553 https://play.google.com/store/apps/details?id=com.nocovid19.su&hl=en_US&gl=US https://www.vesti.ru/hitech/article/2554505		4月27日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日 (2021年)	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種 は義務か任意 か	邦人への接種の場合の 対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健 康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発 行の状況（デジタルか 否か含む）	他国とのワクチン接種 証明書共通化の動き	ワクチン証明を入国/入国 後の防疫措置の緩和条件と する動き			ワクチン接種と国内活動制 限緩和に関する動き
米国	ニューヨーク	2020年12月14日	①ファイザー・ピオンテック（米・独）：53.2% ②モデルナ（米）：43.3% ③ジョンソン・エンド・ジョンソン（米）：3.4% ④その他（不明）：0.1% （5月6日時点の使用状況）	・1回接種済：1億4,954万人超（総人口の45%、18歳以上の人口の57%）。 ・接種完了：1億892万人超（総人口の32.8%、18歳以上の人口の41.9%）。 （5月6日時点）	・各州ともワクチン接種について、住民の国籍制限などは設けられていない。4月19日をもって、全米の16歳以上の住民が接種対象となり、邦人も接種可能に。 ・在米の日本公館は、在留邦人に対して、必要に応じて医療機関などに相談の上、各自の責任でワクチン接種について判断するよう呼びかけ。	任意	・政府が定める指針に従って米国居住者すべてが接種可能 ・4月19日をもって、全米の16歳以上の住民が接種対象に。	無料	不明（そのような情報なし）	CDCからワクチン接種完了を証明する「ワクチンカード」が発行される。デジタル形式の証明は発効されない。	共通化の動きなし	緩和の動きなし	政府は連邦レベルでのワクチンパスポートは導入はしないと表明。 ワクチン接種者は以下の活動制限が緩和。 ・ワクチン接種者同士の会合でのマスク着用不要 ・重症化リスクの低いワクチン非接種者との会合でのマスク着用不要 ・国内旅行時の事前・事後検査不要 ・事前検査なしで国際旅行可（ただし、旅行先による） ・国内外旅行後の自主隔離期間不要	最新のワクチン接種状況 https://covid.cdc.gov/covid-data-tracker/#vaccinations ワクチン接種開始時期 https://www.aarp.org/health/conditions-treatments/info-2020/coronavirus-vaccine-distribution.html 副作用の可能性について https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/info-by-product/pfizer/clinical-considerations.html 法人の接種状況（在米公館） NY総領事館 https://www.ny.us.emb-japan.go.jp/oshirase/covid19-vaccines.html	4月27日
カナダ	トロント	2020年12月13日の週から	①ファイザー・ピオンテック（米・独）：66.7% ②モデルナ（米）：18.2% ③オックスフォード・アストラゼネカ（英）：10.6% ④ベリティ薬品・インド血清研究所製造のオックスフォード・アストラゼネカ（加・印・英）：4.4% ⑤ヤンセン（ジョンソン&ジョンソン）（ベルギー）：0% ⑥不明：0.1% （4月24日時点）	最低1回接種済み：29.31% 必要回数接種済み：2.55% （4月30日時点）	邦人も接種可能。邦人の接種人数等についてのデータは不明。	任意	・全カナダ在住者が対象 ・ファイザー・ピオンテック製は12歳以上、それ以外は18歳以上が対象	無料	・ケベック州：既存の制度でカバーする見込み ・その他州・準州：情報なし ・連邦政府プログラム策定中 ※連邦政府は2月24日、プログラム運営事業者を選定するため、在カナダの営利・非営利団体からの公募受付を終了。選定された第三機関はカナダ公衆衛生庁と5年契約にて「ワクチン傷害支援プログラム」を運営する。	・オンタリオ州：あり（紙のみ） ・ブリティッシュコロンビア州：あり（紙・デジタル） ・マニトバ州：あり（デジタルのみ）	なし	なし	なし	なし	5月7日
ブラジル	サンパウロ	2021年1月17日	①アストラゼネカ(英)：17.5% ②シノバック(中)：82.5% ③スポーツニクV(露)：国家衛生監督庁(ANVISA)承認に向け準備中 ④コバクシン(印)：ANVISA承認に向け準備中 ⑤ファイザー(米)・ピオンテック(独)：ANVISA2月23日に承認。 ⑥ヤンセンファーマ(白・米)のワクチンに対する緊急使用が3月31日に国家衛生監督庁(ANVISA)に承認。	15.5%（5月4日/全国、1回でも接種を受けた割合）	民間企業でワクチンを購入し大規模に接種している事例は未確認。在留邦人への予防接種に期待する声もあり、様子見を行っている企業が多い。65歳以上の、永住ビザを保有している日本人が接種を受けたという事例を聞いている。	任意	明確な規定なし	無料	健康被害救済制度は無いが、連邦政府、州政府、市政府がワクチンを購入した場合に賠償責任は連邦政府、州政府、市政府とする項目を契約書に記入できるようになっている。	公的病院SUSの新型コロナ関連情報受信アプリ「Connect SUS」を通じてデジタルのワクチン証明書の使用が可能。4月6日に観光省、保健省の両大臣がパートナーシップ協定に署名し、安全な観光に向けたツールにすることで一致している。	現時点では無い	現時点では無い	現時点では無い	・ワクチン使用状況の出所：保健省ウェブサイト ・接種進捗の出所：現地グローボ紙系ウェブサイト「G1」	5月7日
メキシコ	メキシコ	2020年12月24日	（4月26日メキシコ到着基準） ①ファイザー・Biontech：39.1% ②アストラゼネカ：21.1% ③シノバック：22.6% ④スポーツニクV：5.0% ⑤カンシノ：12.2%	14.9%（5月3日時点/全国、1回でも接種を受けた人数÷人口）	5月3日以降、60歳以上の高齢者に加え、50～59歳の年齢層に対してもワクチン接種が始まっており、該当する日本人駐在員がワクチン接種に向けた事前登録を実施済みと聞いている。	任意	住民登録単一番号（CURP）の所持者（駐在員・家族など居住者）	無料	どの程度の補償があるかは分からないが、副反応のフォロー体制があり、4月26日までに1万6,489件（接種総数に占める比率は0.10%）が報告されている。	1回目、2回目とも接種証明書が出されるが、紙媒体のみ。	無し。	新型コロナに関連した入国制限は陸路国境を除き、現時点でも一切ないため、緩和する必要がない。	現時点ではない。	ワクチン使用状況の出所：保健省記者会見	5月7日
チリ	サンティアゴ	2020年12月24日	使用状況 ①Pfizer-BioNTech：13.9%（1,902,366回） ②Sinovac：86.1%（11,820,191回）	（5月5日時点）人口1946万人に対し、 ①1回目の接種完了人数：8,293,282人（43%） ②2回目の接種完了人数：6,900,297人（35%）	特定の疾病を抱えた高リスク者や、高齢者から順に接種が始まっている。複数の対象年齢の邦人より、接種報告を受けている。5月第1週に40～44歳、第2週に35～39歳のチリ居住者（外国籍者含む）を対象に任意によるワクチン接種が可能となる。	任意	観光ビザによる一時滞在者、妊婦や小児を除く全邦人。	無料	現時点まで確認されていない。	接種時に紙媒体の証明書を受領。デジタル対応しているという情報は現時点まで確認されていない。	現時点まで確認されていない。	現時点まで確認されていない。	現時点まで確認されていない。	現時点まで確認されていない。	5月7日
ペルー	リマ	2021年2月9日	4,800万個のワクチン契約済み。その内136万7,000回分が調達済み。 ①シノファーム（中国）：100万回分到着済み。 ②ファイザー（米）：25万回分到着済み（2,000万回分購入契約済み）。コバックスファシリティー経由で11万7,000回分到着済み。 ③アストラゼネカ（英）：1,400万回分契約済み（2021年9月到着予定）。コバックスファシリティー経由で27万6,000回分到着済み。	（4月末時点）全国ワクチン接種計画（第1～3段階）の第1段階（医療従事者等）実施中。 第1段階1回目接種：100%（121万2,864人）完了 第1段階2回目接種：100%（64万4,683人）完了 ※当初第1段階に含まれていなかった80歳以上の高齢者への接種が追加され、現在進行中。	在留邦人への接種案内は入国管理局を通じて行われる予定。 外交団や国際機関については、ペルー外務省が別途接種スケジュールを検討中（各国大使館を通じて調査中）。	任意	在留資格保持者全員	無料	有り：法定最低賃金（RMV）930ソルをベースに算出される。	現時点ではない。	現時点ではない。	現時点ではない。	現時点ではない。	現時点ではない。	5月7日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日 (2021年)	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き			ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き
アラブ首長国連邦	ドバイ	1回目：12月11日 2回目：1回目の3週間後 ※シノファーム	【連邦全体で承認・使用】 ①シノファーム（中）：100% ②スプートニク（露）：緊急使用のみ 【ドバイのみで承認・使用】 ①ファイザー（米）：過半数(12/23接種開始) ②アストラゼネカ（英）：少数(2月初旬接種開始) ③モデルナ（米）：使用報道なし	人口100人あたり93.98回（4/16時点）	自己判断で接種している日本人在住者は一定数いるが、正確な人数は不明。「様子見」として日本人がマジョリティ。 ドバイにおいては、2月下旬よりファイザー製ワクチンの接種が本格再開され、接種に踏み切る人が増えており、3/2より接種対象者が（60歳以上から）40歳以上へと拡大されたことから、今後も接種者は増えると思われる。	任意	【連邦】 国民または居住者で、60歳以上または既往症保有者、フロントラインワーカー 【ドバイ】 国民または居住者で、40歳以上または既往症保有者、フロントラインワーカー	無料		政府にて無料で処置する。	情報なし	エミレーツ航空は4月15日より、「IATAトラベルパス」の使用運転を開始。	情報なし	情報なし	4月20日
トルコ	イスタンブール	2021年1月14日	シノバック ※一部ピオンテックも入ってきているがワクチン本数は極めて少ない。	4月19日午前の時点で2,014万3,925人がワクチンを接種。うち1本目のみの接種者数は1,231万3,016人、2本目が783万909人。	任意	邦人も、トルコの在留許可を有する者は、個人に判断により接種が可能となっている。ワクチンは中国シノバック製。次のグループ別に順次実施されている（在トルコ日本国大使館HPより）。 ・第1グループ：医療従事者、介護施設入所者及び就業者、65歳以上の者 ・第2グループ：政府関係者等、50歳以上の者 ・第3グループ：50歳未満18歳以上の者 ・第4グループ：上記グループの内、接種することが出来なかった者	無料	現在、トルコ政府により医療従事者や年齢順などに接種優先順位が決められており、当事務所スタッフはNSを含め全員優先順位は最下位となっている。外国人への接種は在留許可保持者は対象となる。	不明	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	4月20日	
サウジアラビア	リヤド	2020年12月中旬から対象フェーズに分けて、順次接種開始	①ファイザー・ピオンテック社製の2種類が認可済み。 どちらのワクチンを受けるか、は接種センターの選択により可能との情報	保健省は4月13日までに645万278人（総人口の約5分の1）の国民・居住者がワクチン接種を受けたと発表。	任意	個人の判断で接種が行われている様子。総じて支店長クラスの年齢の高い層は接種が進んでいる。	無料	現在は接種対象グループの制限なし。国内在住者であれば国籍、年齢にかかわらず接種を受けることが可能。	報道では、「副反応の事例の報告なし」とのこと。政府からは副反応の処置の対応ぶり（有償、無償）につき、特に発表なし	情報なし	サウジアラビア航空が4月19日より、「IATAトラベルパス」の試験運用を開始	情報なし	情報なし	4月20日	
イスラエル	テルアビブ	1回目：12月19日～ 2回目：1回目の3週間後～	ファイザー100%	人口100人あたり118.98回（4/16時点）	任意	・外交団（大使館、JICA関係者）：イスラエル政府の各国外交団への配慮の一環として接種機会を提供 ・HMOに加入する邦人：HMOのシステムの中で一般のイスラエル人と同様に接種可能 ・HMOに加入しない邦人：当初接種機会がなかったが、テルアビブ市およびイチロフ病院の施策により、無保険である外国人（主にアフリカ等からの難民申請者を想定）に対しても接種を開始したことにより、HMO未加入の邦人も接種可能となった。	無料	制限なし	不明	ワクチン接種者に、6か月間有効の「グリーン・パス」を発行（紙・デジタル）	情報なし	4月11日から、ワクチン接種証明や回復証明の提出等を条件に、経済的観点から緊急性の高いビジネス目的の短期の入国申請の受付を再開	「グリーン・パス」保持者は、レストラン・バーの店内利用、ホテル宿泊（食事を含む）、観光施設への入場、文化・スポーツイベントやカンファレンスへの参加などが可能	4月20日	
南アフリカ共和国	ヨハネスブルク	2月17日	①ジョンソン・エンド・ジョンソン（米）3,000万回分確保（2月17日の接種に使用。4月13日に使用を一時停止、同28日に再開） ②ファイザー（米）3,000万回分（1,500万人分）確保 ③COVAXファミリー1,200万回分予定	約33万9,655回接種、フェーズ1（医療従事者）の27.2%（5月4日時点）	情報なし	まだ開始されていない。フェーズ1：医療従事者の途中段階	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	5月7日	